

火打山&妙高山山行報告

【山行日】2017年9月9～10日(土・日) 晴れ

【集 合】岩舟支所駐車場 AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 19,000円

【メンバー】CL:鈴木 岩淵、島田、松館、渡辺

【コースタイム】9日: 岩舟支所P4:00=笹ヶ峰キ

ャンプ場 P7:00/7:20～黒沢 8:20～富士見平 10:00

～高谷池ヒュッテ 10:50/11:25:～火打山

13:00/13:20～高谷池ヒュッテ 14:30/14:40～

黒沢池ヒュッテ 15:35



頸城山塊の2つの名峰に登る計画を立てた。

北関東道から上信越道を通り、妙高高原ICで降りて登山口がある笹ヶ峰キャンプ場へ向かう。

予定より少し早く駐車場に着き、準備をしてトイレを済ませ出発する。車道を渡り少し行くと立派な登山道入口があり、山行計画書を投函して登山道に入る。黒沢まではブナの樹林帯の中に付けられ



た木道を、緩やかに登って行く。まだ紅葉には早く緑の葉だが、ブナの林はいつの時季でも気持ちが良い。沢の音が聞こえるようになると黒沢は近い。黒沢出合は水場になっており、一息入れるのに丁度よい。

休憩を取り、衣服調整して水分を補給する。

黒沢を橋で渡るとすぐに、「十二曲がり」と呼ばれる九十九折れの急登になる。あせらずに自分のペースで登って行くと、やがて道は稜線の少し開けた場所に出る。ここからは稜線の

樹林帯の中を急登と緩やかな登りを繰り返しながら登って行く。オオシラビソの木が見られるようになると、黒沢池への分岐がある富士見平に着く。高谷池へは左に進み、しばらくは広い稜線上を行くが、途中から黒沢岳の左を巻くように進む。

大きなダケカンバの間を抜けて進むと、左に赤い三角屋根の高谷池ヒュッテが見えてくる。高谷池ヒュッテに着き、脇のベンチでラーメンを作り昼食を食べる。

高谷池ヒュッテに泊る予定だったが、改装工事中で20名しか泊れず予約が取れなかった。

昼食を食べたら不要な荷物をデポし、身軽になって火打山を目指す。高谷池の右を巻くように付けられた木道を行き、池の端でちょっとした岩場を登ると再び木道の道が続く。道の両



側の湿地帯は高山植物が多く、イワショウブやオヤマリンドウ、ウメバチソウの花が見られた。

そして何よりも素晴らしかったのがイワイチョウの葉の紅葉だった。濃い黄色や薄い黄色、黄緑色のグラデーションが素晴らしく、初めて見る紅葉に皆感動した。ここを登り切り、木道を下ると天狗の庭に出る。天狗の庭は大小の池塘が集まった湿原で、草紅葉の湿原に火打山が美しい。ここも湿



原の縁に付けられた木道を進み、やがて火打山からのびた右の稜線に取りつき、掘れた登山道を登って稜線上に出る。大きくすり鉢状に崩れた縁を通り、笹原やダケカンバの林を抜け緩やかに登って行く。雷鳥広場と呼ばれる平らな場所を過ぎ、少し下ると頂上への最後の登りとなる。土が流れるのを防ぐため付けた、丸太の階段を登り切ると広い頂上に着く。頂上からは360度の眺望が得られるが、あいにく雲が多く遠望は得られなかったが、近くの

焼山や妙高山は見られる。下方には天狗の庭や高谷池が箱庭のように見えている。展望を楽しんだら来た道を下山し、高谷池ヒュッテまで戻る。デポした荷物をザックに入れ、今宵の宿黒沢池ヒュッテに向かう。高谷池ヒュッテから火打山の方へ少し戻ると黒沢池への分岐がある。分岐を右に進み、沢状になった急坂を一登りすると木道が笹原の中に続いている。道は緩やかに登って崖の縁を行き、右側の林の中に入る。茶臼山を過ぎると滑りやすい急な下りになり、緩やかになると右手に黒沢池の湿原が見え、下り切ると八角形のドームの形をした黒沢池ヒュッテに着く。



受付が混雑しており、外人のオーナーが対応しているが中々案内されない。

高谷池ヒュッテが泊れない影響で、こちらに宿泊客が回ってきたようだ。ようやく部屋に案内されたが、女性達は布団が湿っぽいと不満顔。荷物を整理し、着替えが済んだらいつもの宴会が始まる。

本館前のベンチで母娘の2人と相席で飲み始め、いろいろ話を聞くとヒュッテのお手伝いに来たらしい。途中でオーナーに呼ばれ、ヒュッテの中に入って行った。黒菱山を見ながらビールや焼酎を飲み、陽が落ちると寒くなり部屋に戻った。夕食の時間になり本館に行くが、夕食の準備が遅く中に入



れてくれない。やっと夕食が始まり、席についてカレーをいただく。明日の朝食の時間を聞くと、4時30分からとの事で、部屋に戻ってすぐに床に就く。

**10日: 黒沢池ヒュッテ 5:35~長助池分岐 6:50
~妙高山 8:15/8:45~天狗平 10:00~麻平分岐
11:00~燕温泉「花文」11:35/14:35=岩舟支所
P18:05**

朝4時に起床し、外に出ると今日も天気は良さ

そうだ。出かけられるように荷物を纏め、朝食の5分前に本館入口に並ぶ。ところが朝食も準備が遅れ、時間を過ぎても中に入れてくれない。

15分くらい遅れて朝食が始まり、名物のクレープを配り始めた。各テーブルに人数分クレープを置き、お代わりを要求するとクレープを持ってくる。

出来立ての温かいクレープに、ブルーベリーのジャムを塗って食べるが同じ味で飽きてくる。オニオンスープとコーヒーが付くが、少し物足りない感じ。

我輩は3枚食べたらず飽きてしまったが、皆さんは4枚食べたようだ。もう少しクレープにはさむものの種類があると美味しくいただけるのにと残念に思った。出かける準備が出来たらトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。道はヒュッテの前で十字路になっており、ヒュッテ本館前の広場から左に



大倉乗越へ向かって登って行く。大倉乗越へは樹林帯の急登が続き、小さな沢を2つ越えると展望が良い大倉乗越に着く。目の前にこれから登る妙高山が聳えるように見えている。乗越から樹林の中をジグザグに下り、右に折れて外輪山の内側を巻くようにして降りて行く。岩の段差や鎖場では



先行パーティがいて、しばらく待たされる。

途中崩壊地を迂回するルートがあり、先行パーティがどちらを進むか検討していた。

左に下る迂回路が安全なようで、我々は迂回路に行くことにした。

ダケカンバの林を下り、涸れた沢を過ぎて灌木の林を抜けると長助池への分岐に着く。

小休止し果物や菓子を食べて、エネルギーを補給しこれからの登りに備える。分岐からの道は涸れ沢を詰めるように登って行くが、いつの間にか道は山腹の急登になっている。頂上まで岩の段差がきつい急な登りが続き、今日のコースで一番つらい所だ。周りに大きな岩が見られるようになると頂上は近い。

岩の間から稜線に出て、右に少し行くと一等三角点がある北峰に着く。山頂標識の前で記念写真を撮り、西側の小高い岩の上に行くと360度の大きなパノラマが広がり、白馬三山から北アルプスが一望できる。展望を楽しんだら、妙高大神のある南峰に向かう。岩の間を縫うようにして南に向かうと、岩の上に妙高大神が祀られた南峰に出る。南峰からも展望を楽しみ、記念写真を撮ったら下山する。下山は南峰の石祠の後ろから下る。下り始めは急な岩場の下りなので慎重に下る。しばらく下るとクサリ場



下り始めは急な岩場の下りなので慎重に下る。しばらく下るとクサリ場

に出るが、足場がしっかりしているので問題なく下れる。冷たい風が吹き出している「風穴」を過ぎて、光善寺池の縁を通り急坂を下ると天狗平に出る。ここは赤倉登山道との分岐になっており、左



の燕登山道を下って行く。樹林帯の急坂を下って行くと、硫黄の臭いがする北地獄谷の河原に出る。河原で休憩をとり、梨を食べ水分を補給する。荒れた河原をしばらく下り、沢を渡ると麻平への分岐に出る。どちらを下りても時間は変わらないが、ここは右の沢沿いのコースを進む。

分岐を過ぎて少し行くと道は流れを渡って右岸に移り、大きくジグザグに急な斜面を下ると水平な道に出る。ここから温泉の引湯パイプに沿ってしばらく下るとスキー場跡の広い舗装道に出る。舗装道路を下

って行き、露天風呂「黄金の湯」の横を通って燕温泉に出る。温泉街の一番下の「ホテル花文」で温泉に入り、昼食の十割蕎麦を予約してある。温泉は硫黄泉で山の疲れがとれとても癒される。

温泉も良かったが、花文の十割蕎麦は絶品で、湊さんが「美味しい～」を連発しながら食べていた。蕎麦を食べたらタクシーを呼んでもらい、タクシー代節約の為1台で我輩が車を取りに笹ヶ峰に行く。笹ヶ峰で車を回収し、花文まで戻り皆を乗せ岩舟支所に向かった。高速道も順調に走り、予定通り岩舟支所に帰着した。